

かけはし 279

“279”とは南郷中の全校生徒数です

平成30年1月25日(第9号)

校長 野口 司

046-875-9494

いよいよ1年間の総仕上げの時期となりました。それぞれの学年が「有終の美」を飾れるように一日一日を大切に充実させ過ぎてほしいと思います。

1月23日には、葉山でも大雪になりました。南郷中学校は山腹にあるせいか一段と雪が深く、純白の美しい世界が出現しました。敬遠されがちな雪ですが、建物も地面も木々も全てを真っ白に包み込んだ非日常の美しさに感動しました。翌日の昼まではたっぷりと残る雪に、多くの生徒が歓声を上げ雪遊びに興じていました。

「冬の寒さを経ざれば春の暖かさを知らず」ということわざがあります。植物は寒い冬を越えてこそ春の日に美しい花を咲かせることができます。人間も苦労があるからこそ楽しさや喜びを感じることができ、困難を経験することで生きている意味も分かり、生きることの楽しさや厳しさなどを味わえるのです。特に3年生にとっては今、進路の実現という困難に直面し、その試練に真剣に向き合い、乗り越えていく力が試されています。残り僅かの日々ですが、自分の周りには、同じ立場や状況にいる仲間がたくさんいます。決して一人ではありません。互いに教え合い、助け合い、励まし合いながら壁をクリアして行ってほしいです。今の状況がピンチなら、ピンチをチャンスに変えられる竹のような、しなやかな3年生であって欲しいと願うばかりです。

1・2年生にとっても特に学習に力を入れるときです。いつまでも嫌なことや苦手なことに背を向けているわけにはいきません。現実をしっかり向き合える、今を一生懸命になれる自分が将来の自分に繋がります。「後悔先に立たず」です。後悔するのは、やるべき時にやらなかったり、前進できるのに前進しなかった時です。後戻りはできません。2017年という過去を取り戻すことはできませんが、2018年というこれから先の未来は切り拓くことはできます。後で後悔しないように、今を精一杯頑張ることが、これからの繋がっていくのですから。

成人式おめでとうございます

1月8日、葉山町福祉文化会館で成人式が行われ300名の新成人を祝いました。毎年、新成人のパーティーについて、とかく否定的な報道が為されていますが、葉山町の成人式は6小中学校の卒業生から出た実行委員が中心となり、和やかで華やかな雰囲気の中、整然と行われました。南郷中学校卒業生の中からは、
さん、
さんが実行委員として企画から当日の式典・祝賀会まで頑張ってくれました。お疲れ様でした。

各種コンクール・大会から

◎神奈川県中学校作文コンクール

神奈川県公立中学校文化連盟会長賞

(3) 「 当たり前のトリセツ 」

神奈川県公立中学校国語科部会長賞

(3) 「 感動を伝えるということ 」

◎神奈川県青少年創意くふう展覧会

努力賞

(2) 「 音で知らせ風では鳴らない家庭用地震測定器 」

年度末までの主な行事予定

1月31日(水) 3年後期期末試験

2月20日(火)～22日(木) 1・2年後期期末試験

19日(月) 3年特別時間割開始

21日(水) 3年卒業遠足

23日(木) 3年FGC地域ボランティア活動

27日(火) 2年東京班列学習

3月 2日(金) 芸術鑑賞会(福祉文化会館)

9日(金) 第37回卒業式

15日(木)～20日(火) 1・2年面談

23日(金) 修了式

第38回入学式は、4月5日(木)に行います。

毎年、中学校に「福祉」「人権」「税」「社会を明るくする運動」など様々な作文コンクールへの応募依頼があります。昨夏もそれに応えて3年生の生徒たちが個人で選択し応募しています。その中から「社会を明るくする運動」作文コンクールにおいて県審査会に推薦された作品を紹介します。

「総合」の力 3

私の通っている学校では「総合的な学習の時間」で三年間を通し、地域との交流や平和学習、いじめの学習などを行っています。学年ごとに大まかなテーマは同じでも、行う内容は少しずつ違います。私の学年は一年次にいじめの学習、二年次に性の学習、三年では広島に修学旅行に行くにあたって平和学習を行いました。また、三年間を通じて進路学習、地域との交流を行っています。

私は通称「総合」と呼ばれているこの時間にとっても魅力を感じています。何故なら、この時間はみんなの素直な意見交換をすることができるからです。私の担任の先生は「総合」の時間になると「どう書いたら先生は満足するんだろう、良い意見になるんだろうって考えずに思ったことをそのまま書いてね」と口ぐせのようにくり返します。ですから、私たち生徒は自分が思ったことをそのまま書き交流します。同じ学習をしても、視点から異なる意見や真反対の意見、自分では考えつかない意見などがたくさん出ます。普通の授業なら解答・模範解答や手本がありますがこの時間にはそれらがありません。よってお互いが刺激し合うことができ、自分たちの考えを深めていくことができるのです。また大人には分からないような、同じ中学生だからこそ共感できることもあると思います。

先日、このことを肌で実感した機会がありました。私の学校では月一回おこなわれる全校集会に「生徒会のコーナー」というものがあります。私を含む七人の生徒会総務役員を中心に、委員会・クラスの活動報告や連絡などをおこなっています。先日の「生徒会のコーナー」で私たちはある取り組みを行いました。それは実際にあったいじめ自殺事件を資料に、いじめについて考えてみようというものです。ここで使用した資料は、私の学年が一年生の時に使用したものを使いました。一年生の頃、私たちはこの資料を基にいじめについて考え交流しました。しかし、それは一学年だからできたことです。全校で意見を交流すること、それ以前に全校生徒全員に関心を持って取り組んでもらうことは容易ではありません。私たち三年生には理解できる内容でも一年生には分かりづらいかも知れない。興味ない、つまらないと真面目に取り組んでくれない人がいるかもしれない。特に三年生は一年次に学習したから適当に流してしまうかもしれない。どうすれば全校生徒が関心を持って取り組んでくれるのだろうか。私たちは大いに悩み考えました。私はその時ふと思ったのです。私がみんなの立場だったらどうだろう。今、私の手元にある資料は文字がピッシリのプリント二枚。このプリントをそのままみんなに配っても、「こんなの読んだって分かんないよ」と、気後れしてしまうのではないかと。私たちが一年生の時は「総合」という授業時間で取り組んだからこの資料を読まないわけにはいきませんでした。しかし、今回は違います。また、全員が全員このプリントを読んで理解できるかと言ったらそうじゃない。幸運なことに、役員の中に絵が得意な子とパソコンの扱いが得意な子がおり、文章をマンガにした資料とそのマンガのスライドや実際の写真、箇条書きで文章の要点をまとめたスライドショーの資料を作ってもらうことができました。結果、多くの生徒から意見をもらうことができました。生徒の中には「とても分かりやすく良かった」と言ってくれる生徒もいました。全員の生徒が同じ資料に関心を持ち、理解できるかと言ったらそうではない。また、大人が当たり前に行えることが中学生だし当たり前に行えるかと言ったらそうではないのです。

世の中にある非行を防ぐにも同じことがいえると思います。私は非行は悪いことというよりも非行と聞いたら、何故そのようなことをしてしまったのかなと考えます。同じ青年期にいる者同士、何かわかり合えるところがあると思うからです。小学校の頃の私なら非行は悪いこととしか考えられなかったでしょう。しかし「総合」でいろいろな人の意見を聞き、物事を考えるようになってから色々な立場から様々な視点で考えることができるようになりました。また地域との交流では地域の方々の中学生への要求・願い、そして何より私たちは見守って頂いていると知ることができ地域と上手に係わることができています。

社会を明るくするために必要なのは、多様な立場・視点から物事を考える力、自分たちを支えてくれている方々への感謝だと私は思います。つまり「総合的な学習」の時間はとても貴重だと思うのです。社会を明るくするためのタネはもう既にまかれています。咲かせていくのは私たち自身です。